

# 札幌市立鴻城小学校の取組

(学校ホームページ <http://www12.sapporo-c.ed.jp/kojo-e/>)

## 1. 学校の実態・地域性

本校は、市内でも風雪厳しいあいの里地区にあり、毎年グラウンドにはたくさんの雪が降り積もる。その雪を集めて造るスキー山では、スキーの他、そり滑りやしり滑りを存分に楽しむことができる。しかし、冬季は氷点下 10 度を超える寒さや猛吹雪になる日も多く、防寒のための身支度に時間がかかるため、積極的に外に行こうとする子が増えていかない。また、放課後等も含め冬の外遊びの体験機会が乏しいせいも、せっかく外に出ても創造的な遊びに発展しにくい状況である。

子どもにとってはマイナスの印象が強い雪であるが、雪を楽しんだり、克服したりするための活動を設定することで、本校の子どもたちに北国の子どものたくましさ、生活を豊かにする知恵を育んでいきたい。そのために、そりや竹スキー、「雪だるまチャンピオンシップ」という雪だるま作りの活動など雪の中で活動する機会を広げているところである。

今年度は、「かぜっ子タイム」という縦割りグループ活動や保健委員会による冬の体力向上の取組を通して、「雪」の中での様々な活動を体験させる。その体験の中で、全校児童のつながりを深めると共に、雪に親しんで雪を克服し、雪と共生しようとするたくましい心と体、冬の生活を豊かにする知恵を育てたい。

## 2. 実践 1

### (1) 活動名

全学年 特別活動 「雪だるまチャンピオンシップ」で、冬を楽しもう  
(縦割りグループ活動 休み時間)

### (2) 活動の目標

- 縦割りグループでの活動を通して、思いやりの心を持ち、子ども同士のつながりを深める。
- 雪に親しむ活動を通して、冬を楽しく過ごそうとする気持ちをもつ。

### (3) 取組の様子

- ① 「雪だるまチャンピオンシップ」に向けて、縦割りグループごとに雪だるま（耳のついている雪だるま）を作るために、設計図作りや役割分担などについて話し合った。高学年が中心となり、他学年の意見を取り入れながら進めていた。
- ② 縦割りグループ活動（雪だるまチャンピオンシップ期間の休み時間）で、グループ毎に雪だるまを作った。風邪等、体調を崩す子が多い日や悪天候の日もあったが、みんなで協力しながら雪だるまを完成させようとしていた。
- ③ 「鴻城雪まつり」と題して、各グループの雪だるまを鑑賞し合い、雪だるまと共に記念写真の撮影をした。他グループの雪だるまを見ながら、自分たちとは違う工夫やおもしろさを見つけ、楽しむ様子が見られた。



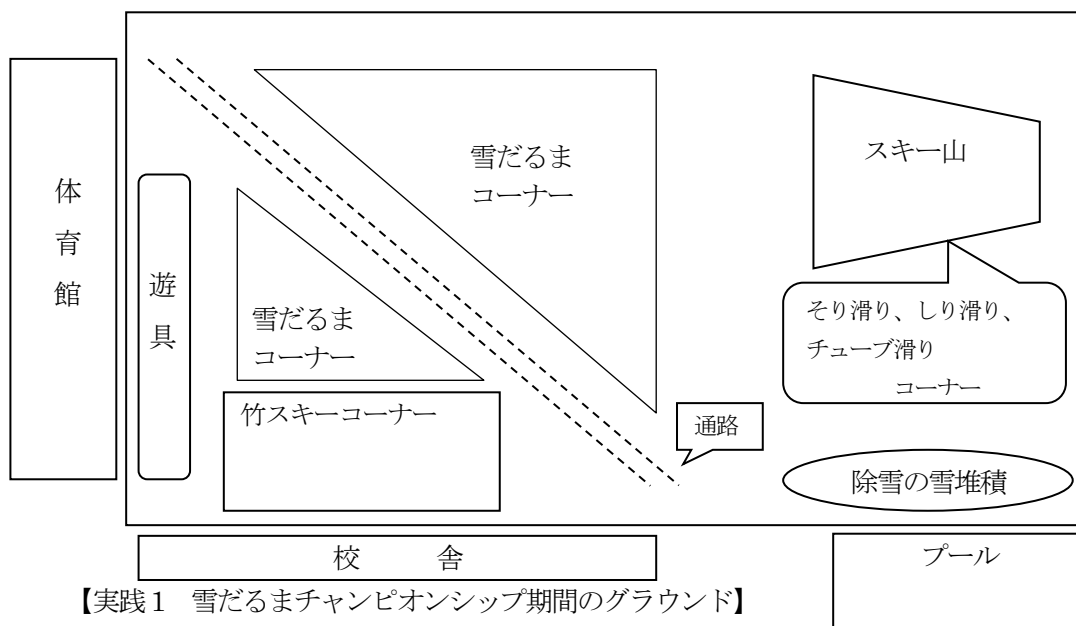
さらさら雪 みんなで固めよう



くっつく雪 転がして大きくしよう



耳も顔も作って完成！



#### (4) 実践のまとめ

- 高学年がリーダーとして、協力して雪だるまづくりを進めるためには、自分が率先して話し合いを進めたり、低学年への気遣いをしながらグループの仲間に声をかけたりすることが大切であることを学んだ。
- 悪天候や体調不良等により人数が揃わなかったこともあり、計画通りに雪だるま作りが進まないグループもあった。そのようなグループには、教師が雪を転がして大きくすることや固まっている雪を掘り出す工夫を伝える等、適切なかわりをする事で子どもの活動が進んだ。苦労しながらもグループみんなで協力して雪だるま完成させたことで達成感や充実感を味わい、子ども同士のかかわりを深めることができた。
- 一週間通して活動することで、その日毎の天気や気温による雪質の違いを肌で感じながら、工夫して雪だるまを作ることができた。

### 3. 実践2

#### (1) 活動名

全学年 特別活動 寒さに負けず元気に冬を楽しもう  
(保健委員会の活動、委員会の時間・休み時間)

#### (2) 活動の目標

「外で遊ぼう運動」の取組を通して、進んで外に出て雪と親しみ、冬を楽しもうとする気持ちをもつ。

#### (3) 取組の様子

- ① 「みんなが毎日笑顔で健康に過ごせる学校にしよう」という目標に向かって、夏と同じく冬も外で元気に遊ぶことを願って「外で遊ぼう運動」の計画をたてた。
- ② お知らせプリントを作成し、各クラスでPRをした。
- ③ 中休みにグラウンドを使い、低学年・高学年に分けて、2日間で「外で遊ぼう運動」を行った。いろいろな冬の遊びを楽しむことができるように次の4つのコーナーを作った。

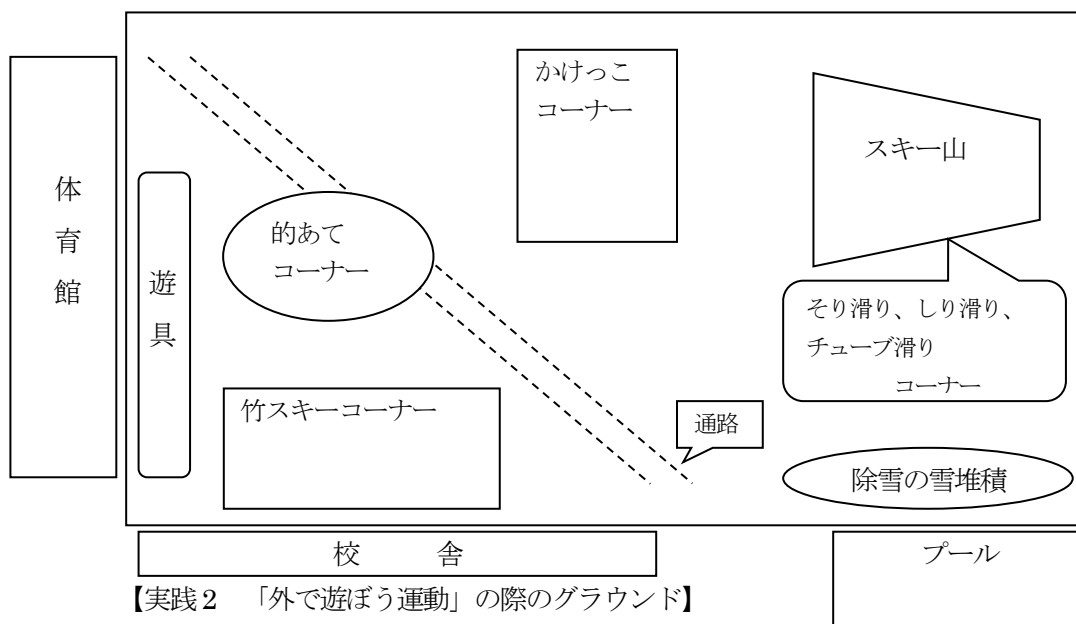


2年生は雪まつり会場でも体験！  
竹スキー



もっとスピードを出すには？  
チューブ滑り

・的あて ・そり滑り、しり滑り、チューブ滑り ・雪上かけっこ ・竹スキー



#### (4) 実践のまとめ

- 保健委員の子どもたちは、冬でも外で元気に遊ぶことをねらいとして、楽しめる遊びの決定、そのための準備や役割分担、来てもらうためのPR作戦など、実施に向けて主体的に活動を進めていた。低学年・高学年に合うように相手意識をもち、ルールやかかわり方を考えて運営することができた。
- 参加した子どもは、それぞれのコーナーを回りながら、ルールを守って安全に冬の遊びを楽しむことができた。



## 4. 研究のまとめ

- これまで冬期間には、休み時間のグラウンドでは、子どもの姿があまり見られなかったが、「雪だるまチャンピオンシップ」や「外で遊ぼう運動」の体験を通して、遊びの種類が広がったことで、外に出て雪の中で遊ぼうとする子どもが増えてきた。取組後の休み時間の様子では、助走して勢いをつけたり、つながって滑ったり、滑るコースを工夫したりする等、雪山での遊びの工夫が広がった。道具や場を与えて体験させることをきっかけとして、外に出て雪の中で遊ぼうという子どもの意欲が高まり、遊びの豊かさが増してきている。
- 竹スキーでも、チューブやそり滑りでも、うまく滑るための作戦を教え合ったり、滑りにくいときに押しってもらったり、「一緒に滑ろう」と声をかけたりする等、自然に子ども同士のかかわりが生まれた。活動する時間や場所を設定することで、子どもが冬を楽しみながら互いの関係を深めることができた。



滑る場所・登る場所のルールを守って

- 雪に関する取組を通して、冬を楽しみ人とのかかわりを深めると共に、ルールを守って安全に遊ぶことや使った物の後片付け等、様々な力を身に付け、使うことができた。
- 的当てコーナーやボール遊びコーナーを常時設置するなど、子どもが遊びたくなる場所として安全面の配慮をしながら、グラウンドの有効活用を工夫していきたい。